

平成28年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：平成29年1月9日（月） 午後1時30分～3時25分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 3人出席（5人中4人）

委員長 萩原 司

副委員長 小島 道裕

委員 神尾 祝子、広田 直行

前委員長 西川 明

（事務局）

大崎生涯学習部長、戎谷郷土博物館館長、小川副館長、白根主査、
学芸担当、市史編さん担当

4 議 題

（1）千葉市立郷土博物館の現状と課題について

（2）その他

5 議事概要及び議事結果

（1）千葉市立郷土博物館の現状と課題について

千葉市立郷土博物館の現状と課題を報告し、博物館協議会の主な検討課題として、今後目指す博物館の姿、公共施設の見直し方針に基づく博物館としての施設規模や立地等、施設の環境整備及び資料の収蔵環境に関する事項を検討することについて、了承を得た。

（2）その他

次回の第2回博物館協議会の開催日程について、3月20日（月）14時、もしくは22日（水）14時のいずれかで調整を図ることとした。また、今回の会議で指摘のあった事項については、後日に資料を郵送で送付することとした。

6 会議経過

午後1時30分、委員5人中4人着席（鈴木委員は欠席）。

小川副館長の司会進行により、大崎生涯学習部長の挨拶、委員の紹介及び挨拶、事務局職員の紹介を行った。次に、千葉市立博物館協議会運営規則第2条の規定により、委員の互選で萩原委員が委員長、小島委員が副委員長に選出された。

その後、会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していることを告げた。また、千葉市情報公開条例25条に基づき会議を公開していることを告げ、以後、萩原委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）千葉市立郷土博物館の現状と課題について

< 説明 >

白根主査 千葉市立郷土博物館の概要、及び郷土博物館の整備、展示改修に関する経過を説明し、パワーポイントの画像を使用して館内を説明した。

西川前委員長 千葉市立博物館協議会のこれまでの経緯及び審議内容について、委員の意見・要望と館の対応、取り組むべき課題を説明した。

戎谷館長 千葉市立郷土博物館の現状と課題、千葉市立博物館協議会の今後のスケジュール、平成28年度千葉市立郷土博物館の自己点検・自己評価の中間報告について説明した。

< 質疑応答 >

萩原委員長 資料の内容についてご質問等があればお願いしたい。

神尾委員 資料にあるフィールドミュージアムの内容について教えてほしい。

戎谷館長 これまで博物館として機能していたのが館内だけだった。博物館周辺には千葉氏関連の史跡があり、昨年からはボランティア学習会や教員の研修の場所として活用してきた。こうした史跡を活かした学習活動を展開していく。郡上市や小城市などにもそうした例がある。

小島副委員長 昨年度と今年度はどのような企画展を実施したのか。

白根主査 27年度は、特別展「資料にみる千葉氏」、ミニ企画展「よみがえった古代ハス」、企画展「観光千葉市」を実施した。

28年度は、千葉開府890年としてパネル展「全国に広がった千葉氏」、企画展「千葉妙見大縁起の世界」、市史ミニ企画展「展示で古文書講座」を実施した。

小島副委員長 博物館の方向性を考えるうえで、どういうテーマの展示をしてきたかというのが非常に重要だと思うので、できれば開館当初からの企画展・特別展の実施状況の資料を提示してほしい。これまでの展示の傾向により、今後何をやったらいいのかという方向性が見やすくなる。

戎谷館長 実施状況の一覧は整理しているので送付する。

小島副委員長 企画展の図録などはその都度作成してはいないのか。

戎谷館長 昨年度の企画展「資料に見る千葉氏」の図録はいいものを作っており、完売してしまった。今年度の「千葉妙見大縁起の世界」の場合は、過去に作成した絵巻の図録を販売し、簡単なリーフレットも作成した。

通常、図録は年に1回作成している。去年の企画展「観光ちば」については、歴史的に振り返るいい企画だと思うが、図録を製作できなかったのも、今後は手作りでもいいかから、提供できるようにしていきたい。

萩原委員長 確かに、今までの企画の一覧をみるとこれからは見えてくると思う。

また、もう一つ感じたことは、2階の休憩コーナーのところに研究紀要が置いてあるが、内容はけっこう面白い、館内に置いておくだけでなく、市民の目に触れるところへもっと積極的に配付したらどうか。

- 学芸担当 研究紀要については、市内の図書館・公民館に送付して配架をお願いしている。その他、県内外の博物館、大学研究機関等にも配付している。
- 萩原委員長 いきいきプラザで、高齢者向けに郷土史の講座を担当していると、千葉市の歴史の関心が高いことを感じる。特に企業戦士だった人が、会社を退職して何かをやろうとしたとき、千葉に住んでいるのに千葉のことを全く知らなかったという声を聞く、自分が住んでいる千葉市の歴史を知りたいと思っている。子どもをターゲットにするのも重要だけど、千葉の郷土史に対する需要はかなり高いので、高齢者に向けてのPR活動も必要だと思う。
- 戎谷館長 一般的には中高年者が利用する博物館というイメージがあるが、実際の利用者層を年代別でみると40代が多い。親子連れや30代、3世代も来館するため、各年代のニーズによって丁寧に対応することを心掛けている。高齢の方やいろいろな団体の方にも、それぞれに応じて学芸員やボランティア解説員が対応している。
- また、小学校については、学習内容に応じて説明しており、さらに専門的な高齢者のニーズにも応えられるよう努力している。
- 萩原委員長 千葉の歴史を代表する博物館としては、少し狭いし小さいという感じがするが、そのへん広田委員はいかがか。
- 広田委員 施設の面積的なことよりも、説明を聞いていると博物館の運営活動は非常に盛んに行われているという印象を受けた。各種団体との協力も行われており、そういうもののデジタル情報化はどのくらい進んでいるのか、場所の狭さを補う方法を考えなければならないという気がした。
- もう1つ、いちばん印象に残ったのが、千葉氏の話がちょっと強すぎるかなと感じる。千葉市の郷土博物館なのに、千葉市という地域、場所との関係性が薄いと感じた。地域との関係性がもう少し出て来ると、先ほどのフィールドミュージアムに発展するかなという印象を受けた。
- 館内に掲示してある年表を見ると、千葉市は町村合併も行っており、千葉市の発展形として、地域がどのように展開してきたのかを示すことが重要である。
- 萩原委員長 千葉氏にかかわらない史跡も結構あるのでは。たとえば、医学部のところに辛亥革命の碑というのもあり、千葉市の歴史は千葉氏だけではなく、それ以外にも面白いものがある。
- 小島副委員長 博物館のボランティア活動の内容を教えてください。
- 白根主査 大きく展示解説ボランティアと市史ボランティアに分かれる。展示解説ボランティアは、3階常設展示「千葉氏の興亡と妙見信仰」の展示解説を土曜日・日曜日の午前・午後、または団体向けに行っている。
- 市史ボランティアは、古文書や新聞史料などの整理を行っている。
- 小島副委員長 体験学習の補助にボランティアはいないのか。
- 白根主査 毎月第2土曜日の甲冑や着物等の着用体験の着付や、第4土曜日の昔遊びの体験でもお手伝いいただいている。

小島副委員長 自己評価をやるのは大変で、よくされているかと思うが、数字だけではあまり意味がなく、何をやってそれがどうだったかという質的な評価に踏み込まないと、これからどうすべきかということにはつながらない。

また、研究紀要が実はおもしろいという話があったが、調査研究も大変頑張っていていただいていると思うが、その成果をどのように発信するか、どうしたら見てもらえるかということが重要である。冊子を作って配布するというのももちろんあるが、今はネットの時代なので、ネット上に出ていない情報というのは気がつかれる可能性が低くなってしまう。

来館者していない方にどのように働きかけ、どのように発信していくのか、ホームページもリニューアルされており、いいものになっていると思うが、方向性として来館者向けになっており、施設的に貧弱で展示も十分なスペースがないというこれまでに繰り返し指摘されているとおおり、それだけでは難しい面もあるので、施設依存でない、つまり来館者でない方の利用も考慮しなくてはならない。

当館も実はかなり不便なところにあるが、そこにどう働きかけをするのかどう利用してもらおうかというのがかなり重要になっている。

市史と連動しているということも調査研究についての大変強みとなっているが、そういうところをどう発信するかというのが少し課題となってくる。

研究紀要については、リポジトリとして公開することも必要であり、当館においても、これまでに出版している研究紀要などをネット上で閲覧できるようにして、それは、他の研究機関でも必死に取り組んでいるところであり、それをしないとホームページを見ても見えなくなってしまう。

ホームページを来館者向けの広報媒体としてではなく、もっと内容的なところを、アーカイブという形で研究蓄積や展示内容、写真等を公開して貯めていくと、それがデジタルアーカイブになって残る。去年の観光都市の企画展や5階の写真や地図なども住民の関心も高いだろうし、博物館だけでやると大変になるが、市全体で連携して取り組む必要があり、インターネットを利用した情報発信と蓄積が課題である。

戎谷館長 市の行政情報ネットワークシステムだと一定の制約がある。デジタルアーカイブについては、レンタルサーバーなどの導入も含めて昨年度から検討している。今後は、来館者になってもらえるような仕組みを検討していきたい。

小島副委員長 デジタルアーカイブの構築やホームページを含めたネット環境の整備についても、おそらく市の次期実施計画に載せていくことで、事業の実現が可能となるだろう。

また、展示についても、ただ資料を見てもらうだけでなく、図録を作成することによって後で残って閲覧してもらえる。インターネット上のアーカイブのためのコンテンツ作りが重要で、アーカイブ作成のための展示という意味を持ちつつある。調査研究の蓄積はあるので、それらをまとめて公開していくと強みになってくるかなと思う。

戎谷館長 これからもインターネット上での情報提供を進める一方で、高齢者向けに強いニーズのある紙ベースでも対応していきたい。

小島副委員長 そのへんは、おそらくいろいろな切り分けが必要になってくると思う。媒体として直接来館してみてもらう展示、冊子という紙媒体は長期保存できるし、全国に直接配ることもでき、高齢者向けでもある。若い人は圧倒的にネットを利用し、世界にも発信することができる。そのようなことを中長期計画に盛り込んでいく必要があると思うが、博物館では、SNSの発信は行っているのか。

戎谷館長 博物館独自でSNSの発信は行っていない。

小島副委員長 他には、場所性やテーマ性の問題もある。一つは、千葉氏の専門性で地位を確立することは重要であり、ここに来れば千葉氏のことはすべてわかるということには意味がある。しかし、千葉市に住んでいる人がすべて千葉氏に関心があるとは限らないし、千葉氏の弱点は中世までなので、これだけでは都市アイデンティティに非常になりにくい面がある。

だいたいどこの市でも、近世の城に相当するものが中心で、それに相当するものが千葉にはない。強いて言えば、港町の性格などがあるが、地域博物館としては、近世の千葉市、及び近現代の千葉市といった地域性・場所性も扱っていく必要がある。

それらを課題別に、館内での展示や体験学習、来館者向けや来館者以外の対応などの面で切り分け、マトリックスで整理すると中長期計画ができるのではないかと。

萩原委員長 それでは、博物館協議会の主な検討課題として、今後目指す博物館の姿、公共施設の見直し方針に基づく博物館としての施設規模や立地等、施設の環境整備及び資料の収蔵環境に関する事項を検討するという事で、委員の方々からいろいろな意見が出ましたので、事務局でそれをまとめて、提示していただければと思う。

議事（2）その他

小川副館長 次回の第2回博物館協議会については、3月20日（月）14時、もしくは22日（水）14時のいずれかで開催の日程調整を図る。また、今回指摘のあった事項については、後日に資料を郵送で送付する。

萩原委員長 他に何かあるか。特に何もなければこれで議事を終了する。
それでは、事務局にお返しします。

小川副館長の挨拶により、平成28年度第1回千葉市立博物館協議会を終了した。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231